【研究報告　第382集】　概要版

教室談話分析からみるコミュニケーション能力の育成に関する研究
ーグランド・ルール「つながり言葉」を活用してー

四日市市教育委員会教育支援課　研修・研究グループ　研修員　生川　恵美

1　研究の目的

グランド・ルール（話し合いを円滑に行うためのルール）として「つながり言葉」を効果的に活用することで，コミュニケーション能力が育成されることを明らかにする。

2　研究の内容と方法

⑴　グランド・ルールとつながり言葉

話し合いのグランド・ルールとして，「～さんと同じで」「～さんとちがって」など他者とかかわらせて発話するつながり言葉を活用する。

⑵　つながり言葉に関する学習プログラムの実施

事前アンケートの結果および担任への聞き取りから次のような実施計画を立てた。

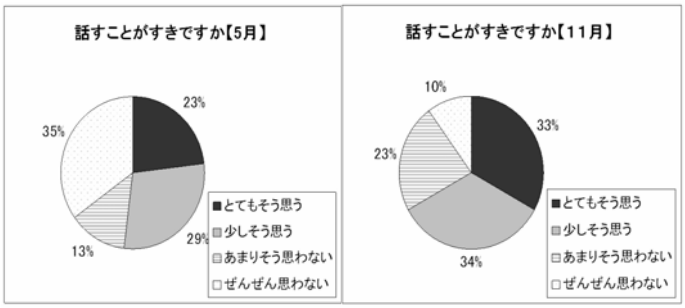
- プログラム１では，つながり言葉の良さを知り，クラスの「オリジナルつながり言葉」を作って，実際に話す・聴く演習を実施する。
- プログラム２では，国語科の授業の中で，つながり言葉を活用して話したり聴いたり話し合ったりする。
- つながり言葉を効果的に活用するための手だてとして，「つながり言葉の掲示」「児童をつなぐ教師の言葉がけ」「『話し方・聴き方』のルール・目標づくり」「自分の考えをつくる手だて」「学習ふり返りカードの活用」「教師のふり返り」を行う。

⑶　効果の測定

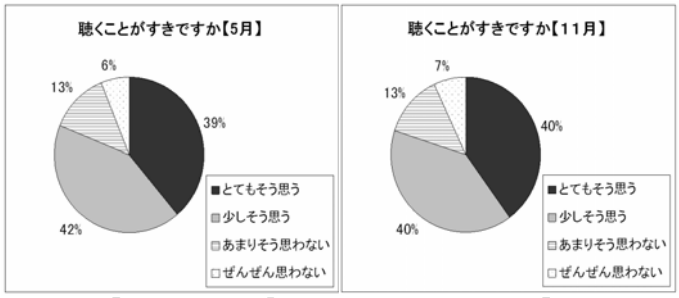
教師の発話と児童の発話をそれぞれカテゴリーに分類し，発話数や発話の傾向を量的に分析する。また，つながり言葉が使われている場面に着目し，「論争型」「共感型」「探求型」の３つの話し合いの枠組みを用いて，質的変容をとらえる。

3　研究のまとめ

⑴　事前・事後のアンケート結果より



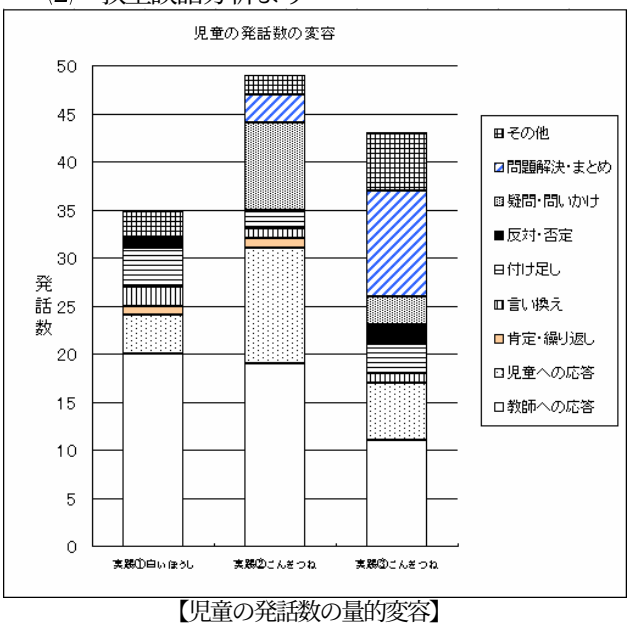
【5月と１１月の「話すこと」の関心・意欲の変容】



【5月と１１月の「聴くこと」の関心・意欲の変容】

学習プログラムを実施したことにより，特に，話すことに対する抵抗感が弱くなり，話す意欲が高まった。

⑵　教室談話分析より



【児童の発話数の量的変容】

児童の発話総数が増え，児童同士がかかわる発話の割合が高くなった。また，児童から出された疑問に対して，「～さんの疑問に答えて」というつながり言葉を使って，他者とかかわらせて解決しようとする「探求型」の話し合いが見られるようになり，コミュニケーション能力が量的・質的に高まったことが明らかとなった。

⑶　つながり言葉の効果的な活用方法について

- クラスのオリジナルつながり言葉を児童とともに作り，「つながりカード」「つながりポスト」などを設置し，継続して取り組める環境を整えるようにする。
- 教師が児童の発話を受けとめ，児童同士をつなぐ言葉がけをすることで，児童に安心を与えるとともに，友達とつながる喜びがもてるようにする。

【研究報告　第383集】　概要版

ＩＣＴ活用指導力を高めるための効果的な校内研修の在り方に関する研究
～ワークショップ型校内研修の実践を通して～

四日市市教育委員会教育支援課　研修・研究グループ　長期研修員　長田　淳

1　研究の目的

授業でのＩＣＴ活用指導力を高める研修モデルを作成し，それに基づいたワークショップ型研修の効果を明らかにする。

2　研究の内容と方法

⑴　教師のＩＣＴ活用指導力の分析

ＩＣＴ活用指導力チェックリストによる教師のＩＣＴ活用指導力を，Ａ「教材研究・指導の準備・評価などにＩＣＴを活用する能力」Ｂ「授業中にＩＣＴを活用して指導する能力」の大項目について評価し，教師の授業におけるＩＣＴ活用指導力の分析を行う。

⑵　研修モデルの計画

ＩＣＴ活用指導力の評価及び質問調査の結果による教師の状況から，授業でのＩＣＴ活用指導力を高める全６回の校内研修（研修モデル）を以下の順に計画した。※実施期間（5月～１２月）

①　ＩＣＴの効果を用いて，分かりやすい授業を明らかにする。

②　日常的にＩＣＴを活用するための効果的な準備や環境整備の方法を明らかにする。

③　研修の中間評価を行い，研修計画や研修の内容の問題点を明らかにする。

④　模擬授業を行い，ＩＣＴ活用の効果や指導上の問題点を明らかにする。

⑤　実践報告を通して，学習単元や授業のねらいに応じた適切な活用方法を明らかにする。

⑥　全研修の評価を行い，本研修モデルの問題点を明らかにする。

⑶　ワークショップ型研修の実施

上記の研修モデルに基づき，ワークショップを用いて少人数による研修を実施する。

⑷　効果の測定

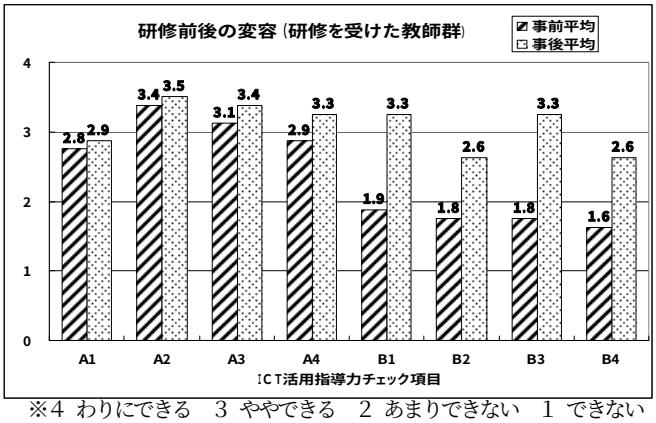
研修モデル実施前後で，ＩＣＴ活用指導力チェックリストを実施し，ＩＣＴ活用指導力（Ａ・Ｂの大項目）の効果を測定する。

⑸　各研修会の分析

研修会ごとに研修の評価を行い，教師の意識や考えの変容を考察する。

3　研究のまとめ

⑴　研修モデル実施前後のＩＣＴ活用指導力の調査結果より



※4 わりにできる　3 ややできる　2 あまりできない　1 できない

【研修モデル実施前後のＩＣＴ活用指導力の変化】

	評　価　内　容
A1	ICT を利用して教育効果をあげるための計画をする。
A2	教材等の収集のために ICT を活用する。
A3	授業でプレゼンテーションソフト等を活用する。
A4	学習評価を ICT で管理し集計する。
B1	ICT で生徒の興味・関心を高める効果的な提示をする。
B2	ICT で生徒の課題意識を持たせる効果的な提示をする。
B3	ICT で生徒の思考や理解を深める効果的な提示をする。
B4	ICT で生徒の知識定着を図る効果的な提示をする。

【ＩＣＴ活用指導力チェックリスト(Ａ・Ｂ項目)】

ＩＣＴ活用指導力チェックリストや調査質問紙等によって把握した教師の実態に合わせ，研修モデルを計画的に実施していくことで，授業でのＩＣＴ活用指導力が高まり，ＩＣＴの効果を授業に取り入れた授業づくりを促進させる効果があることが明らかになった。

⑵　ワークショップの効果について

実際の授業や実態に即した課題を教師相互の経験や知識によって解決できたことで，教師の新たな気づきや変容を生む効果があることが明らかになった。

⑶　研修モデルの効果的な活用方法について

・　ＩＣＴ活用指導力チェックリストと調査質問氏による調査を行い，教師の状態をアセスメントした上で課題を系統立てる。これに基づき，課題解決できる研修モデルを年間でカリキュラムし実施する。

・　ワークショップでは研修リーダーや情報担当者が中心となり，課題解決の効果を意識できるようにはたらきかける。

【研究報告　第 384 集】　概要版

対人関係スキルを育成する効果的な支援方法の研究
―適応指導教室におけるソーシャルスキルトレーニングの実践を通して―

四日市市教育委員会教育支援課　適応指導教室指導員　加藤眞智子　福井宣行　長谷由香

1　研究の目的

適応指導教室に通ってくる通級生を対象に，スキル獲得を目標にして練習を行う構成的な形態と自然な場でスキルの実践をねらう非構成的な形態の両方を活用したソーシャルスキルトレーニング（以下，SST）を行うことで，対人関係スキルを高めることができることを明らかにする。

2　研究の内容

⑴　SST の定義とアプローチについて

本研究では，「SST とは，良好な人間関係を結び，保つための感情の持ち方及び認知や行動の具体的な技術やコツを獲得し運用できるようにするための練習」と定義した。

基本的な関わりに必要なスキルや仲間関係を発展させるスキルを使用することをねらいとして，構成的な形態と非構成的な形態で行う。

⑵　適応指導教室における SST の考え方・進め方

通級生のうち中学生 10 名を対象に行うが，その中の 3 名に焦点をあてて変容を調査する。

進め方で特に大事にした点は，アセスメントである。SST への不安を取り除き，自分の課題に向き合い，意欲的に参加させるために生徒の考えている課題と指導員側の願いを摺り合わせて目標を決定した。その目標にあった獲得するスキルを選び，次のように計画した。

- 構成的課題では，「あいさつ」「あたたかい言葉かけ」「やさしい頼み方」「上手な聴き方」の 4 つを選び，そのスキルを使用する場面を必ず作って実施する。
- 非構成的課題では，適応指導教室の年間の活動として組まれている体験活動のうち「七宝焼き」「料理教室」「テニス教室」や日々の生活の中での観察を行う。

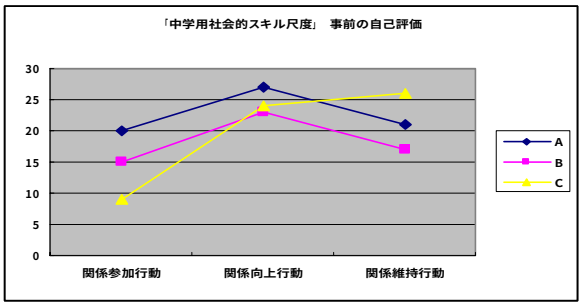
⑶　評価について

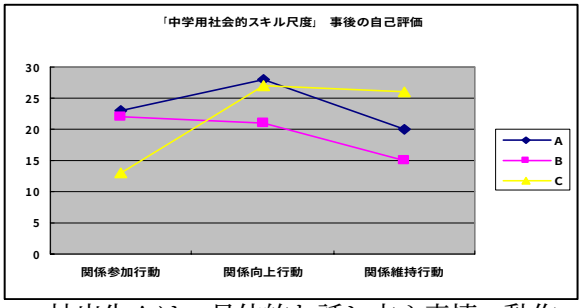
通級生の自己評価と指導員が評価（他者評価）したものを使って，事前と事後で変容を見る。

3　実践結果とまとめ

⑴　結果

「中学用社会的スキル尺度」を用いた事前・事後の自己評価は以下のとおりである。





抽出生Ａは，具体的な話し方や表情・動作などがわかり，関係を築こうとした相手に話しかけることができるようになった。

抽出生Ｂは，他の通級生に気軽に話しかけたり，習ったスキルを生活の中で使えたり人とうまく関われるようになった。

抽出生Ｃは，自己評価は多少上がってはいるが，その後の行動を観察しても SST による効果はほとんど見られなかった。

⑵　まとめ

効果的な支援方法として明らかになったのは次の４点である。

① 構成的な形態と非構成的な形態を，その順序も考慮し組み合わせて行うことで，実践回数が増加し，より般化しやすくなった。

② 個々のソーシャルスキルの習得段階に応じた支援のプログラムを考えていく必要があることがはっきりした。

③ 構成的な形態におけるゲームを活用することで，ＳＳＴへの不安の解消と，雰囲気作りを行うことができた。

④ 有効なスキルを選定するためのアセスメントとして，通級生が考える課題と指導員の見立ての摺り合わせは効果があった。